

桐壺 (光源氏の誕生)

阪 坂 東 忠 義

桐 壺 (光 源 氏 の 誕 生) No. 4

※1 いづれの御時にか・

「昔々あるところに・」という昔話の書き出しの変形で、

紫式部はこの話は架空の話ですよ」と最初に読者に断りを

入れているが、まるまる嘘でもなく現実には起きた出来事であ

るかのように匂わせている。

※2 女御 更衣

女御は上達部以上の家の娘がなれる。更衣は納言以上の貴族

の娘がなれる。上位の女性ほど帝との接触は多い。帝は五

場所と身分差に応じて女性と交わりたがるもの。

※3 上達部・上人

政治を執行するごく少数の上級貴族が上達部(公卿)

清涼殿の殿上の間に昇ることができる四・五位の上級貴族が

殿上人(一人)。彼らは帝に親しく仕えて帝を輔佐する立

場。彼らですら帝に反感を持っている。

※4 天の下もて悩む

貴族たちにとっては世の中が乱れることが一番心配事。

※5 楊貴妃の例

唐の玄宗皇帝の時代、皇帝が楊貴妃を熱愛するあまり、政治

をおろそかにして、安禄山の乱などが起きて世の中が乱れた。

これをきつかけに唐が衰えた。

※6 世のおぼえ

「一般貴族たちの噂」「皇族や上級貴族にとっては一般貴族や

世間の人々が自分をどう評価しているかが気になっていた。

※7 後見・寄せ

経済的、政治的なバックボーン。スポンサー。父親の政治的

権力。

※8 契り

前世からの約束。因縁

※9 清らなる

「清潔な」「清らかな」の意味。当時の最高の美しさの表現

※10 玉

白玉のこと。乳白色の宝石で古来、中国で尊ばれている。

※11 御容貌

容貌だけでなくその人の姿、雰囲気などをさす。

※12 儲けの君

皇太子のこと。皇太子の周りには常に貴族たちが取り巻いて

媚びつらい、自分を売り込んでいる。

※13 匂ひ

その人全体から出てくる雰囲気。オーラ。匂いだけでではない。

※14 私物

自分の私的な持ち物。秘蔵菓子。

※15 上宮仕え

帝の身の世話をする女官。場合によれば帝のs・xの相手

もする。典侍・掌侍・命婦の名で呼ばれる。

※16 御遊び

管弦楽を聞いたり、演奏したりすることが「遊び」。

※17 坊

皇太子。東宮。

※18 一の皇子の女御

「弘徽殿の女御」のこと。右大臣の娘で、早くから皇后とな

り、皇太子を産む。息子がわいさのあまり、ことあることに

光源氏を憎み、光源氏を陥れて、徹底的に光源氏の敵役に徹

した。

※19 桐壺

「桐壺舎」のこと。帝の后たちの部屋の中で最も北の端の

部屋の名。身分の高い后ほど清涼殿に近い部屋を持つている。

※20 御前渡り

帝が後の部屋に行くこと。普通は昼間に行く。

※21 打橋

離れた部屋と部屋をつなげる臨時の掛け橋。防火と保安のため

め離している。

※22 渡殿

屋根のある渡り廊下。

※23 あやしき業

排他物の入った箱を更衣たちに投げつけること。

※24 馬道

部屋と部屋の間に厚板を廊下のように渡した通路。馬を通す

ときには外せるようにしている。

※25 後涼殿

清涼殿の西隣に隣接している建物。後宮の図を参照。

※26 上局

身分が高い后が、清涼殿の中に持っている部屋「弘徽殿の上

の局」と藤壺の上の局)の二部屋があった。

帝は更衣を女御に格上げして、部屋も後涼殿に移し、その部

屋を「上の局」にしようと呼び出した。しかし上達部の反

対にあった様子になったようだ。

